

## ● TOEFL のスコアについて

「現地校在籍者の場合、どの程度の英語力を期待しているのか」というご質問もよく受けます。学園としては英語力だけを期待しているわけではありませんし、英語力のレベルが高ければ高いに越したことはありませんから、この点は申し上げ難いものがあります。

とはいえ、現在の高校1年の「特進コース」にいる帰国生たちを例に引きますと、CBTで「210」以上を皆とっています。今年5月から導入されましたiBTでいえば「77」以上になりますので、一応の参考にしてください。

他方、高校1年の「総合コース」ではCBT「160」(iBT「56」前後)以上となっていて、高校卒業までにiBT「83」以上にもっていくことが、学園の“公約”です。

日本の英語検定(STEP)は余りにされない方がよろしいのですが、受験の機会がありましたら2級以上に挑戦してみてください。大学受験までに英検1級に合格していれば、とても有利にはなりますので、早目に試験に慣れておく意義があります。

なお、本学園が帰国生に期待していますのは、幅広い視野に立った思考力や論理的な解析力です。あえて学科試験を課さず、小論文と面接でそれを見抜こうとしているわけですが、この点については別の機会に説明いたします。

注) CBT: Computer-based Testing の略  
iBT: Internet-based Testing の略

### 【お知らせ】

2006年度から3年間、順心女子学園は文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ハイスクールに指定されました。海外AO入試(随時)については、27ページをご覧ください。

順心女子学園 中学校・高等学校  
〒106-0047 東京都港区南麻布5-1-14  
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192  
www.junshin.ac.jp

### 小山 和智

おやま かずとも

順心女子学園中学・高校 校長補佐



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>



## 英語補習校だより (4)

### 考えながら読む

“英語モード”で文章を読ませると、面白いことに気が付きます。最初の段落を読み終えるころから、もう「フム……」とか「ノウ……」などと呟きだすのです。大人しい子でも、なんとなく微笑んでいるか顔に皺を寄せているかで、内容に対する好悪が想像できます。

なるほど、幼いころから「疑いながら読む」「批判的に読む」といった訓練を受けてきているわけで、文章の冒頭から「イエスカノウか…」などと自然に考えているのでしょう。日本の小学校の先生なら、「(これは良い文章だから)まず、よく読みなさい」と教えますし、たまに「批評的に」とはいつても、「内容を疑え」というところまでは指導しません。

5・6年生には時々、ミステリーを読ませています。一行ごとに状況が見えてきたりヒントを発見したりしながら、楽しく読み進めるからです。日本語では「ミステリー」を「推理小説」などと訳しますので、「クイズ」や「パズル」とは意味が異なりますが、英語では同じ概念の言葉です。論理的に“謎”を解いていく過程を、子どもたちは喜びます。

今年の4月から、英国の現地校で英文学を教えていた先生も指導に加わっていただきました。「現地校の年齢相当の学年が読むものを使って、鍛えて欲しい」という保護者のご要望に、かなり応えることができるようになりましたし、英語の図書の充実にも協力してもらっています。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

### 編集長から一言

ほぼ1世紀の女子校の伝統をさらに飛躍させるために、男子の受け入れを始めるとの発表です。

学校名の変更。文部科学省によるスーパー・イングリッシュ・ハイスクールの指定。さらに、土曜日の英語補習校を発展させての全日制インターナショナル・スクールも開校し地元の外国人子弟の教育にも貢献されることも聞いています。まさに、学校改革の嵐です。

少子化・学校教育の多様化・外国人子弟の教育と、時代と社会の要請に応えるための改革です。がんばってください。

昨年の海外入試に合格したアメリカからの新入生も元気で日本での生活をスタートしたとのこと。生徒は落ち着いていますね。